大田原税務署長賞

私と税金

大田原市立大田原中学校

３年　池田　桃花

私は何回も税金が無ければ良いと考えたことがある。友達と買い物に行く時、よく消費税のせいで計算をくるわされる。食事に行くときだってそうだと思う。税金が少しかかっているだけでも高いと感じ買ったり食べたりする事をためらってしまう。周りの人も私と同じ考えなら店の商品はあまり売れず、経済もあまり回らなくなりそうだが、実際はそうでもない。別にそこまで嫌な物ではないのかなとか考えたりもするが、やっぱり税金は無い方が良いと考えていた。

しかし、私の考えを変える出来事が２回あり私の考えを変えた。私が小学５年生の時祖父が救急車で運ばれた。祖父は宮城県に住んでいて、私はいつも夏休みや冬休みに遊びに行っていた。私が小さいころから優しくしてくれた祖父が、救急車で運ばれたと聞いたときには心臓が一瞬とまった。しかし、宮城まで離れているので会いに行けず、ただ祖母からの連絡を待つしかなかった。その次の日、退院したという連絡が入った。運ばれた原因は喉に食べ物をつまらせた事らしかった。私はほっとした。その日の夜、祖母と電話をしている時に、「私はパニックになってどうして良いのか分からなかったの。でも救急隊が素早くかけつけてくれたおかげでじいじは助かったのよ。」と祖母は話していた。その頃は何とも思っていなかったが、中学生になってふと疑問を持った。なぜこんなに大切な仕事なのにお金がかからないのだろうという疑問だった。なので自分で調べてみることにした。そうすると、救急車の運営費や人件費は全て税金から出ていることが分かった。そして、その税金には消費税も含んでいた。それまでは自分が払っている税金は全て国の収入になり、他の事に使われていると考えていたのでびっくりした。私の祖父は、救急隊や病院の方々はもちろん全国の人達に助けられたんだと感じた。自分達が払っていた税金は決して無駄ではなかったことになんだか嬉しくなったが、申し訳なさも出てきた。私は今まで何も調べようとも知ろうともせずに、ただ税金なんてなくなってしまえば良い、なんで私が払わないといけないのと不満ばかり口に出していた。けど自分で調べてみることで事実を知り自分の考えが間違っていたことに気づくことができた。この後さらに外国の救急車も調べてみた所、多くの国はお金を払わなくてはならないことが分かった。自分達の国では当たり前のことでも外国の人にとっては当たり前じゃない。

私達日本人は税金があるおかげで生きている。税金のおかげで公共施設が整備され危険な場所も減り、万が一、命に関わるようなけがを負っても、金額を気にせず救急車を呼ぶことができる。私はこれからも税金を払い続ける。しかし、前とは払う時に考える事は違う。だって私の税金が誰かを助け、誰かの税金が私を助けてくれているかもしれないから。